

TOEIC IP テストの方略

—授業の中で実施した小テストと TOEIC IP の結果分析から—

宮奥 正道*

A Strategy for TOEIC IP Test An Analysis of the Small Tests and the Results of TOEIC IP Test

Masamichi MIYAOKU

Abstract

TOEIC Test has been playing a very important role not only in the evaluation of English ability of adults in the various workplaces but also in that of the English teaching in universities and colleges in Japan. A certain target score in TOEIC test has become, de facto, a criterion of JABEE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) In order to reach the target score of TOEIC test, we introduced a small test in the ordinary English classes. In addition we opened a new class for TOEIC test. We would like to examine an analysis of the small tests and the results of TOEIC IP test which we have encouraged students to take for some years. We also would like to propose a strategy for the TOEIC IP test based on the analysis.

Key words: TOEIC IP, Listening Test

1 はじめに

近年高等専門学校において、TOEIC テストは、目標とするある一定の点数が JABEE 認定の一つの基準となっていることもあって、大変注目されている。本校においては、4年まえから TOEIC テストの対策として、4・5年生を対象に「英語特論」が選択科目として開講された。ここ4年間の本校として実施してきた TOEIC テスト対策の結果を報告する。また、2007年度、3年生の後期の英語講読の授業で実施した TOEIC テスト対策の小テストの結果や、2009年7月に実施した TOEIC IP テストを受けた学生の内、英語特論受講者のテストの結果を分析し、TOEIC テスト対策で受験生の点数を上げるにはどのようにしたらよいかを、リスニングを中心に提案したい。

2 TOEIC IP テスト

2.1 TOEIC IP テストの実施

2006年度から、本校を会場として実施できる TOEIC IP テストを受験するように学生に呼びかけてきた。2006年度からの実施の状況を以下に示す。

表1 2006年6月実施

	400以上	350-399	300-349	250-299	249以下	受験者数	平均点
本科生	0	1	2	6	2	11	292.7
専攻科生						0	
小計	0	1	2	6	2	11	292.7

表 2 2007 年 1 月実施

	400 以上	350-399	300-349	250-299	249 以下	受験者数	平均点
本科生	3	2	3	2	1	11	333.6
専攻科生	1	0	0	0	1	2	327.5
小計	4	2	3	2	2	13	332.7

表 3 2008 年 1 月実施 受験した留学生 3 名を集計から除いた

	400 以上	350-399	300-349	250-299	249 以下	受験者数	平均点
本科生	3	3	3	8	3	20	331.3
専攻科生	0	0	4	2	3	9	275.6
小計	3	3	7	10	6	29	301.2

表 4 2008 年 7 月実施

	400 以上	350-399	300-349	250-299	249 以下	受験者数	平均点
本科生	1	1	1	8	0	11	298.2
専攻科生	1	0	0	2	3	6	278.3
小計	2	1	1	10	3	17	291.2

表 5 2009 年 1 月 受験した留学生 1 名を集計から除いた。

	400 以上	350-399	300-349	250-299	249 以下	受験者数	平均点
本科生	1	3	5	8	4	21	300.7
専攻科生	1	2	2	2	0	7	360.7
小計	2	5	7	10	4	28	315.7

表 6 2009 年 7 月実施

	400 以上	350-399	300-349	250-299	249 以下	受験者数	平均点
本科生	5	7	4	8	2	26	328.3
専攻科生	1	0	3	3	0	7	310.0
小計	6	7	7	11	2	33	324.4

このテストを 2006 年度より毎年 2 回程度実施してきた。2006 年度は 2 回実施したが、2 回とも 13 名程度であった。2007 年 7 月のように予定していたが、参加人数が少なくて実施ができなかった時もある。しかし、その後、学生に受験するよう呼びかけた結果、次第に受験人数は増加してきた。

受験者の得点については、JABEE 認定のための目標の 400 点を超えている者は、2009 年 7 月実施以外には数名と少ない。全体の平均点は 300 点から 320 点あたりで推移しているが、表 4 のように 2008 年 7 月のように 300 点以下の時もある。本科と専攻科の学生を比較すると、表 5 の 2009 年 1 月実施以外には、専攻科の受験生のほうがやや悪い。2009 年 1 月実施で専攻科の平均が 360 点と大変良かったのは、1 名 600 点以上の学生がいたためである。

3 授業における、TOEIC IP テストに向けての取り組み

3.1 2007 年度、3 年生の授業での取り組み

2007 年度 3 年生の英語講読の後期の授業で、3 クラス（全体で 116 名）において、リスニングの小テストを実施した。なお前期は英語検定試験のリスニングの小テストを実施していた。教材としては桐原書店発行の **SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1** を使用した。

この小テストは実際の TOEIC のテストに添って、リスニングは Part 1 から Part 4 まで 4 種類の問題からできている。Part 1 が 2 問、Part 2 が 4 問、Part 3 が 3 問、Part 4 が 3 問で全部で 12 問からできている。

この小テストの分析をするため、1 回 12 点満点の 7 回分の小テストの個人の平均点を基にして並べ替えた。上位 20 名を上位群とし、全体の平均点の中央値を中心にして 20 名を中位群、下位 20 名を下位群とした。このデータの集計において、留学生 2 名、退学者 2 名を除いた。さらに一番下位の者は欠席も多く、またテストも極端に悪く、下位群からも外した。（分析の対象者は全体で 111 名）

上位群は小テストの平均点が 8.63 から 6.38 の間であり、2.3 の開きがある。上位群の平均点は 6.93

であった。8 点以上が 1 名、7.5 以上で 8 点未満が 2 名、7.5 以上で 7.5 未満が 5 名、6.5 以上、7 未満が 10 名、6.5 未満が 2 名であった。上位群の中央値は 6.78 であり、大半が 7 点以下になる。したがって上位群の中でも大きく差がある。

中位群は小テストの平均点が 5.25 から 4.88 であり、上位群とくらべこの中での差は少ない。

下位群は小テストの平均点が 4.0 のから 3.0 の間であった。下位群の平均点は 3.68 で中央値は 3.79 であり、下位群の中でもさらに点数が下位のものがやや多い。

以下 Part 1 から順に問題の種類ごとに分析する。

3.2 Part 1 の分析

この問題は写真を見ながら、聞こえてきた英文の中から最も適切なものを a,b,c,d の 4 つ中から選ぶ問題である。

Part 1 (1 回 2 問×7 回、計 14 問) だけ集計し、上位群、中位群、下位群の平均点を出したのが表 7 である。平均点は 1 回でも欠席した時があれば、それを除いた受験者で平均点を取った。また分かりやすくするために、10 点満点に換算してみた。表 7 を見ると、平均点では上位群と中位群の間にはあまり差はないが、中位群と下位群の間に大きな差がある。また表 8 を見ると、上位群においても正解率 100% から、わずか 10% と問題によって大きく正解率に差が生じている。

これは写真を見て、写真のどこに注目するかによって、解答できる場合とできない場合があると予想される、受験する者にとっては、一見すると写真を見て答える比較的簡単な問題であると思われるが、テストの結果から、難易度が大きく異なる問題があることが分かる。

写真を使った問題であるため、例を挙げての分析は、紙面の都合上ここでは控えておく。

表 7 Part 1 の各群ごとの平均点と標準偏差 (σ)

	上位群		中位群		下位群	
	平均	σ	平均	σ	平均	σ
全 14 問	8.53	1.82	8.06	2.01	5.25	1.71
10 点換算	6.09	1.30	5.76	1.44	3.75	1.22

表 8 Part 1 の上位、中位、下位の各群ごとの内わけ

		1 回		2 回		3 回		4 回		5 回		6 回		7 回	
		1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
上位群	正解者数	15	19	2	14	7	2	9	10	20	8	14	18	14	17
	欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	正解率%	75	95	10	70	35	10	45	50	100	40	70	90	70	85
中位群	正解者数	5	16	5	17	19	11	10	12	15	6	6	15	7	16
	欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
	正解率%	25	80	25	85	95	55	50	60	75	30	30	75	35	80
下位群	正解者数	10	9	3	8	13	7	2	7	9	3	2	14	4	13
	欠席	1	1	3	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	正解率%	50	45	15	40	65	35	10	35	45	15	10	70	20	65

3.3 Part 2 の問題

この問題は単文を聞き、それに対して答えを a,b,c の 3 つ中から答える問題である。以下、Part 2 の小テストの分析を行う。

Part 2 (1 回 4 問×7 回、計 28 問) だけを集計して、上位群、中位群、下位群の平均点を出したのが表 9 である。平均点は 1 回でも欠席した時があれば、その受験者を除いた受験者で平均点を取った。Part ごとに合計点が異なるので、Part ごとの比較を分かりやすくするために、点数を 10 点満点に換算してみた。Part 2 では上位群と下位群の間で 10 点換算で 2.2 の開きがあることが分かる。

表9 Part 2 の各群ごとの平均点と標準偏差 (σ)

	上位群		中位群		下位群	
	平均	σ	平均	σ	平均	σ
28 問	15.50	2.70	12.31	2.26	9.38	1.54
10 点換算	5.55	0.97	4.40	0.81	3.35	0.55

3.3.1 問題の形式から分析

問題の形式によって、どのように正解率が異なるかどうか分析してみる。質問形式としては初めに What や Who のようにいわゆる「Wh-形式」の質問と、それ以外の疑問文や平叙文で始まる文章で、正解率に差が出ているかを比較する。

問題の始まりが What や Who のような「Wh-形式」の場合と、そうでない場合と比べてみると、上位群と中位群においては、1 回の問題 3 や 5、2 回の問題 3 のように「Wh-形式」の問題では他の問題形よりも、全体的に 2 回の問題 6 や 6 回の問題 6 以外では正解率が高い。ただし、「Wh-形式」の問題でも 2 回の問題 6 や 6 回の問題 3 のように Why で始まる問題は正解率が低い。What や Who の場合は答えになるところだけでもピンポイントで理解できれば、解くことができる場合があるのに対して、Why で始まる問題は、その答えの性質上、答えがやや長くなることもあって、文章全体が十分理解できていないと解答できないと思われる。

下位群においては、上位群 1 回の問題 5、7 回の問題 5 のように平叙文で始まる文章の方が解答率が高いものがある。下位群においては、Wh-形式の問題で始まる問題が、正解率において低い。

表 10-1

	回	1 回				2 回				3 回			
		問題				問題				問題			
		What	Q	Q	Dec	What	What	Why	Dec	Who	Q	Dec	When
上位群	正解者	14	8	16	15	17	11	9	17	16	5	10	7
	欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正解率%	70	40	80	75	85	55	45	85	80	25	50	35
中位群	正解者	13	12	6	9	12	11	10	10	9	10	5	6
	欠席	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	正解率%	65	60	30	45	60	55	50	50	45	50	25	30
下位群	正解者	7	5	10	7	5	5	6	5	6	5	5	4
	欠席	1	1	1	1	2	2	2	2	0	0	0	0
	正解率%	35	25	50	35	25	25	30	25	30	25	25	20

問題形式の Q は Wh-形式以外の疑問文、Dec は平叙文を表す。

表 10-2

	回	4回				5回				6回			
		問題				問題				問題			
		Where	When	Q	dec	Why	Q	dec	dec	When	dec	dec	Who
上位群	正解者	13	13	4	3	11	12	12	15	9	10	11	12
	欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正解率%	65	65	20	15	55	60	60	75	45	50	55	60
中位群	正解者	10	6	6	8	7	10	8	10	7	12	8	4
	欠席	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
	正解率%	50	30	30	40	35	50	40	50	35	60	40	20
下位群	正解者	6	8	3	6	4	8	4	9	3	6	7	8
	欠席	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	正解率%	30	40	15	30	20	40	20	45	15	30	35	40

表 10-3

	回	7回			
	問題	3	4	5	6
	質問形式	Dec	Dec	Why	Where
上位群	正解者	5	11	7	15
	欠席	1	1	1	1
	正解率%	25	55	35	75
中位群	正解者	4	11	4	6
	欠席	1	1	1	1
	正解率%	20	55	20	30
下位群	正解者	6	10	6	9
	欠席	0	0	0	0
	正解率%	30	50	30	45

3.3.2 正解率の高い問題例

表 11 第2回 問題3

	上位群	中位群	下位群		上位群	中位群	下位群
A	2	3	8	a%	10	15	40
B	17	12	5	b%	85	60	25
C	1	4	4	c%	5	20	20
無答	0	0	0	無答	0	0	0
受験者数	20	19	17	欠席%	0	5	15
欠席	0	1	3	正解者	17	12	5
				正解率%	85	60	25

上位群では一番正解率が高いが、下位群では正解率が低い問題である。

問題 Part 2 第2回 問題3 (音声だけ)

質問: What will you do on Saturday? (*が正解)

解答: (a) She will go downtown.

(b) I will go to the park. *

(c) I will work on Sunday.

正解は(b)であるが、下位群では(a)と答えた者が8名もいた。これは(a)の She で始まるところで間違いであると分かるはずであるが、質問の you が聞き取れていないためであろうと思われる。

3.3.2 解答率の低い問題例

表 12 4回 問題5

	上位群	中位群	下位群		上位群	中位群	下位群
A	4	6	3	a%	20	30	15
B	10	9	10	b%	50	45	50
C	6	5	6	c%	30	25	30
無答	0	0	0	無答	0	0	0
受験者数	20	20	19	欠席%	0	0	5
欠席	0	0	1	正解者	4	6	3
				正解率%	20	30	15

問題 Part2 第4回 問題5 (音声だけ)

質問: Did Norm catch the flight? (*が正解)

- 解答： (a) No, he was too late. *
 (b) Yes, he took a train.
 (c) Yes, he went by bus.

正解は(a)であるが、上位群、中位群、下位群ともに(b)と答えた者が多い。これは(a)の答えが例えば No, he did not get on a plane. などとなっていれば正解率が高かった可能性が考えられるが、このように、間接的な答えでは短い時間では答えることができなかったものと推定できる。

3.4 Part 3 の問題

Part 3 では二人の会話を聞いて答える問題である。単文を聴き取る Part 1 や Part 2 と比べて、Paer3 は少し難しくなる。しかし、実際の TOEIC の問題に比べれば、難しいとは言えない。

表 13 Part 3 の各群ごとの平均点と標準偏差 (σ)

	上位群		中位群		下位群	
	平均	σ	平均	σ	平均	σ
21 問	9.79	1.73	8.31	2.05	5.75	1.75
10 点換算	4.56	0.82	3.96	0.96	2.74	0.83

Part 3 (1回3問×7回、計21問) だけを集計して、上位群、中位群、下位群の平均点を出したのが表 13 である。平均点は1回でも欠席した時があれば、その受験者を除いた受験者で平均点を取った。Part 1、Part 2 の上位群の平均点と比べると、それぞれ上位群で10点換算で1.56点となり0.99低下しており、Part 3 の問題がさらに難しくなっていることが分かる。

3.4.1 Part 3 の問題の正解率

表 14-1 群ごとの正解者と正解率

	回	1回			2回			3回			4回		
		問題番号	7	8	9	7	8	9	7	8	9	7	8
上位群	正解者	12	13	18	15	9	1	11	12	12	3	6	4
	欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正解率%	60	65	90	75	45	5	55	60	60	15	30	20
中位群	正解者	5	9	7	14	7	1	8	12	9	9	10	5
	欠席	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
	正解率%	25	45	35	70	35	5	40	60	45	45	50	25
下位群	正解者	6	4	5	5	5	4	3	7	4	8	5	5
	欠席	1	1	1	3	3	3	0	0	0	1	1	1
	正解率%	30	20	25	25	25	20	15	35	20	40	25	25

表 14-2 群ごとの正解者と正解率

	問題番号	5回			6回			7回		
		7	8	9	7	8	9	7	8	9
上位群	正解者	8	13	2	5	3	6	17	15	9
	欠席	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	正解率%	40	65	10	25	15	30	85	75	45
中位群	正解者	4	6	2	3	4	4	13	13	10
	欠席	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	正解率%	20	30	10	15	20	20	65	65	50
下位群	正解者	4	6	4	0	4	6	7	7	7
	欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正解率%	20	30	20	0	20	30	35	35	35

上位群と中位群では問題によって、正解率の差が大きいのが目立つ。また下位群においては、正解率が 40%を超えるものがない。

3.4.2 解答率の高かった問題

表 15 7回 問題7

	上位群	中位群	下位群		上位群	中位群	下位群
A	17	13	7	a%	85	65	35
B	1	1	3	b%	5	5	15
C	0	3	7	c%	0	15	35
D	1	2	3	d%	5	10	15
無答	0	0	0	無答	0	0	0
受験者数	19	19	20	欠席%	5	5	0
欠席	1	1	0	正解者	17	13	7
				正解率%	85	65	35

問題 7回 問題7 Part 3 より (会話は音声だけ)

会話 A: It is impossible to get anything done. When will the technicians come?

B: In the afternoon. They'll finish by tomorrow evening.

C: Oh, OK, I thought they might be done today.

回答欄 (質問と答えの選択肢は印刷してある。)

質問 Who is the man waiting for? (*が正解)

答え (a) The technicians * (b) The electricity to return

(c) The woman (d) An evening flight

質問が Who で始まっているので、会話 A の中に the technicians という言葉が聞き取れれば出来る問題である。上位群、中位群では正解者が多いが、下位群では 7 名 (35%) しか正解者がいない。

3.4.3 解答率の低かった問題

表 16 5回 問題7

	上位群	中位群	下位群		上位群	中位群	下位群
A	2	6	3	a%	10	30	15
B	9	9	12	b%	45	45	60
C	8	4	4	c%	40	20	20
D	1	0	1	d%	5	0	5
無答	0	0	0	無答	0	0	0
受験者数	20	19	20	欠席%	0	5	0
欠席	0	1	0	正解者	8	4	4
				正解率%	40	20	20

問題 5回 問題7 Part 3 より (会話は音声だけ)

会話 A: New Age System hasn't paid us yet.

B: Really? We should contact them right away.

A: Yes, We need the money by tomorrow.

B: The boss will be very angry if this doesn't go well.

回答欄 (質問と答えの選択肢は印刷してある。)

質問 What is the problem? (*が正解)

答え (a) The contract is not ready. (b) They can't contact New Age System.

(c) They didn't get the money. * (d) The deadline has passed.

答えの選択肢の(b)の中に contact という会話の中に出てきたのでそれに釣られて、(b)を選んでも

のと思われる。この問題を解くには、会話の始めのAの文章が聞き取れて理解できなければならない。また解答は(c)のように形を変えてある。この問題は内容を十分理解できないと、解くことはできない。

3.5 Part 4 の問題

Part 4 は少し長い文章を聞いて、それにたいして内容を問う問題に答える形式である。

表 17 Part 4 の各群ごとの平均点と標準偏差 (σ)

	上位群		中位群		下位群	
	平均	σ	平均	σ	平均	σ
21 問	10.90	2.07	6.64	1.63	5.74	2.30
10 点換算	5.19	0.99	3.30	0.77	2.74	1.10

Part 4 (1回3問×7回、計21問)だけを集計して、上位群、中位群、下位群の平均点を出したのが表 17 である。平均点は1回でも欠席した時があれば、それを除いた受験者で平均点を取った。上位群と中位群の平均点の差が10点換算で1.89もある。

3.5.1 Part 4 の問題の正解率

表 18-1

問題番号		1回			2回			3回			4回		
		10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12
上位群	正解者	12	6	10	13	12	12	12	6	8	14	10	13
	欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正解者%	60	30	50	65	60	60	60	30	40	70	50	65
中位群	正解者	3	5	8	7	11	4	4	4	4	5	11	13
	欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正解者%	15	25	40	35	55	20	20	20	20	25	55	65
下位群	正解者	2	6	2	7	8	5	6	7	0	6	5	8
	欠席	1	1	1	3	3	3	0	0	0	1	1	1
	正解者%	10	30	10	35	40	25	30	35	0	30	25	40

表 18-2

問題番号		5回			6回			7回		
		10	11	12	10	11	12	10	11	12
上位群	正解者	8	7	4	14	9	12	13	11	9
	欠席	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	正解者%	40	35	20	70	45	60	65	55	45
中位群	正解者	6	8	3	8	5	7	7	9	7
	欠席	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	正解者%	30	40	15	40	25	35	35	45	35
下位群	正解者	7	8	5	7	4	7	9	4	2
	欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正解者%	35	40	25	35	20	35	45	20	10

やはり問題が難しいのか、全体的に正解率が低い。上位群においても正解率が70%に達したのは1回だけである。中位群や下位群では全体的に大変、正解率が低くなっている。

3.5.2 Part 4 の問題例

全体的に解答率が低いので例として、1回10を取り上げる。

表19 第1回10

	上位群	中位群	下位群		上位群	中位群	下位群
A	3	3	2	a%	15	15	10
B	2	6	8	b%	10	30	40
C	3	6	7	c%	15	30	35
D	12	3	2	d%	60	15	10
無答	0	1	0	無答	0	5	0
受験者数	20	19	19	欠席%	0	5	5
欠席	0	1	1	正解者	12	3	2
				正解者%	60	15	10

問題 Part 4 第1回 問題10 (英文は音声だけ)

Your weather for tomorrow will be mostly sunny in the morning. It will be a great time to work outside or enjoy outdoor sports. Enjoy it while it lasts, however it will become partly cloudy around noon. There is an 80% chance of rain in the afternoon and evening. Because of the lasting warm and cold fronts, prepare yourself for challengeable weather.

回答欄 (質問と答えの選択肢は印刷してある。)

Who is probably making this announcement? (*が正解)

- (a) A school teacher (b) A polite officer
(c) A businessperson (d) A TV announcer *

第1番目の文章の weather, sunny の単語から天気予報であることが分かれば、解答はすぐに d であることが分かる。しかし上位群では 60% の正解率であったが、中位群、下位群では大変悪い。weather のような単語が聞き取れなければ難しいと思われる。

4 TOEIC 対策の授業と実際の TOEIC IP の結果

表20

学生	定期試験			小テスト 平均		TOEIC IP テスト		
	中間	期末	平均	Listening	Reading	Listening	Reading	Total
1	95	94	94.5	6.4	5.7	260	165	425
2	93	92	92.5	6.7	4.2	250	160	410
3	97	90	93.5	7.0	6.5	260	140	400
4	88	72	80.0	6.1	3.4	220	170	390
5	94	84	89.0	6.1	4.3	220	150	370
6	88	89	88.5	5.2	4.1	205	145	350
7	89	70	79.5	6.3	3.8	205	115	320
8	37	77	57.0	5.5	3.5	205	105	310
9	92	79	85.5	5.3	3.8	195	100	295
10	79	77	78.0	6.5	2.4	200	90	290
11	91	73	82.0	5.3	2.9	200	80	280
12	87	91	89.0	5.1	2.4	175	80	255
13	61	74	67.5	5.4	3.7	180	75	255
14	75	52	63.5	4.4	2.3	欠	欠	欠

2006 年度から TOEIC IP 試験の対策のために英語特論という選択科目を開講したが、受講者になかなかその趣旨が徹底しなかったためか、この授業の受講者でさえ TOEIC IP テストをなかなか受験しなかった。その後、最初の授業で授業の目的をよく説明した結果 2008 年度からは受講者が受験するようになった。

英語特論の受講者の小テストとその実際の TOEIC IP テストを比較してみる。表 20 は平成 21 年度前期「英語特論 1」という TOEIC IP テスト対策の授業を選択した学生の、定期試験、小テスト、TOEIC IP(7 月 11 日実施)の結果をまとめたものである。小テストの内 Listening テストは桐原書店の Successful Keys To The TOEIC Test 2 の Listening の部分を使用して 11 回実施し、その平均点である。(12 点満点)、Reading の小テストは日本英語検定協会の 2 級用「Step Up Listening Step 4」を全部文字に直して小テストとして使用した。テストの実施にあたっては音声を流しながら実施した。これは終了の時間をそろえるためと、できるだけ後戻りせずに英文を読ませることを目的としたからである。

表 20 に示したように、授業の受講者の内、目標とする 400 点を越えたものは 3 名である。またどの学生も Listening の方が Reading よりも高く、一番差のあるのが学生 1 の 95 点、差が少ないもので学生 4 で 50 点の差であった。

表 21 それぞれの試験の相関関係

		定期試験	小テスト		TOEIC IP		
		平均	Listening	Reading	Listening	Reading	Total
定期試験	平均						
小テスト	Listening	0.53					
小テスト	Reading	0.54	0.64				
TOEIC IP	Listening	0.53	0.80	0.82			
TOEIC IP	Reading	0.50	0.57	0.61	0.80		
TOEIC IP	Total	0.54	0.71	0.74	0.93	0.96	

表 21 において、それぞれの試験の相関関係を調べてみると、定期試験と TOEIC IP の試験との相関関係は 0.5 程度とあまり高くない。つまり定期試験は実際の TOEIC IP テストの結果にはあまり反映されていない。しかし小テストと TOEIC IP の試験の相関関係は 0.802 と Listening で高いが、Reading では 0.615 とさほど高くない。TOEIC テスト対策として、小テストの練習で最も効果があったのは Listening の試験対策であったと思われる。

5 まとめと今後の課題

TOEIC 受験対策のために選択の授業「英語特論」を開講して、特に Listening 力を伸ばすこと中心に取り組んできた。表 20 や表 21 を使って分析したように、実際の TOEIC IP テストの結果を見ると、Listening に関しは授業との相関関係が高く、いくらかの成果は出たものと思われる。しかし、定期試験や Reading に関しては実際の IP テストとあまり相関関係が高くなく、TOEIC テストの受験対策のためには、今後定期試験や Reading テストの改善が必要である。

2007 年度の授業で実施した Listening の小テストを分析した結果から明らかなように、TOEIC IP テストでは Part 3 から難しくなり、特に Part 4 では学生はなかなか点数が取れない。これは聞き取る文章が次第に長くなったり、知らない単語や表現が出てくるためであると思われる。

したがって、TOEIC テストの Listening 対策として次のことが挙げられる。

- ① 問題が解きやすい Part 1 と Part 2 でしっかりと問題がとくことができるようにする。
- ② Part 2 ではまず「wh-の質問」を確実にとくように心がける。
- ③ Part 3 では聞き取れた所から、どのような場面で、誰と誰の会話か、話のテーマは何かを推測する力が必要である。
- ④ Part 4 では文章が長くなり、また語彙が難しくなる。そのため全部を完全に聞き取り解答することは大変困難である。そのためまずは語彙を増やすと同時に、聞き取れた所から、この文章のテーマは何かを推察する力が必要である。

6 参考文献

- 井上治(2008) 「TOEIC テスト初級者のためのリスニング・セクションパート2 攻略法再考 - 近畿大学経済学部の TOEIC テストへの取り組みとともに-」『生駒経済論叢』 第6巻第2号, pp.185-201
- 小池生夫(1993) 『英語のヒアリングとその指導』東京、大修館書店
- 小寺光雄・吉田三郎(2007) 「TOEIC 指導における e-learning 利用の効果について」『福井高等専門学校研究紀要』 No.41 pp.13-21,
- 竹蓋幸生(1984) 『ヒアリングの行動科学』東京、研究社
- 田辺英一郎(2008) 「高専4年次における TOEIC 指導」『鶴岡工業高等専門学校 No.43, pp.57-60
- 吉田研作(1989) 『英語リスニング上達の方法』東京、Japan Times

